

幼 兒 教 育

第二十二卷
第三三號

大正十一年三月十五日發行

末子や獨り兒と幼稚園

文學士 平 田 華 藏

私の子供は小石川竹早町の女子師範の附屬幼稚園に通ふて居ります。私がこの學校に關係して居ります上から、此處の幼稚園は設備としても充分ではありませんし、少し校内が狭いので、幼稚園がおしこめられ氣味になつて居りますので、色々の缺點をよく知つて居りますが、私の子供は末子で一人息子である事から、尙更幼稚園へ御世話になる事にいたしました。

幼稚園は子供等にとつては誠に大切なものであることは今更申上げる迄ありませんが、末子とか、獨り子とかに取つては非常に必要なものであります。私には三人子供がありますが、唯今幼稚園に通ふてゐる子供は、その中で一番末であり、そして只一人

の男の子であります。その上親戚等にも女の兒ばかりが多いので、皆が私の子をもてはやして可愛がりすぎ私の妻も子供の中では一番多く可愛いがり、私までがかうではいけないと思ひながらつひまた可愛いがりすぎるのであります。

末子とか獨り子とかは、このやうに親の溺愛をうけることが多く、従つて同じ年輩の子供にも接する機會を與へられず、とかく家庭内に於て偏した教育をうけさせられることが多いのであります。幼稚園教育は、善良な保母方の感化をうけて子供等がよくなるといふ事もありますが、同じ年輩の子供等が集つて、その中で子供が子供に及ぼす感化そのものは實に偉大なものであります。まして、子供同士の

受ける影響が、善良な保母方のよい指導の下に行はれるとなつては、尙更有益なものであります。子供は大人と一緒に居つたばかりでは、子供としての生活を有益に送ることが出来ないであります。子供には子供の友達がなくはならないのであります。末子や獨り子には、この大切な子供の友達が缺けて居るのであります、これが、子供としての身心發育に大なる妨害となるのであります。それで、特に末子や獨り子を持つて居られる父兄方に、幼稚園教育の必要をお話したのであります。

實は、私は以前大阪に居りました時、大寶小學校及び其の附屬幼稚園の兒童につきまして、長子、獨り子、一末子の研究をして見た事がありました。調査の材料をまごめかけて居る時に、上京するやうになりましたものですから、上京後なんとなく多忙で未だ充分に出來て居りません。いづれまごめましたら、又御誌を拜借して發表させて頂きます。左はその一部分であります。

私が調査しました末子は、幼兒九名(男四、女五)、兒童九十一名(男三七、女五四)についてであります。この子供等に最も接近して世話をした養育者を調べ

て見ますと、母六二人、祖母一六人、伯叔母八人、父三人、女子乳母二人であります。

一、祖母に育てられた子供の一般的特徴、

イ、性質因循、我儘、執拗なるもの多い

ロ、交友の狀態は不和のもの多い

ハ、體質は中以下のもの多い

ニ、勤惰狀況は不良のもの多い

二、伯叔母に育てられた子供の一般的特徴

イ、性質多くは我儘執拗

ロ、交友の狀態は不良なるもの多い

ハ、操行よからざるもの多い

ニ、勤惰狀況不良のもの多い

三、父に育てられた子供の一般的特徴

イ、私が調べた者三人は二人まで凡ての方面に放縱な事が目立つてゐました

左に掲げますのは、前に申した末子(幼兒九名、兒童九十一名)についての一般的調査の表であります。

一、學業成績は概して良好で、四七人までは優秀の部に入るものでした。

二、動作は、活潑のもの三三%、不活潑三%、靜肅沈著のもの一三%、輕率のもの五%、普通八%、

三、言語は概して明瞭のもの多く、随分多辯のものが多かつたのであります。不明瞭のもの、低聲なるもの、吃音あるもの、合せて二八%

四、交友の状態は概して不良で、右百人の子供の中三十六人までは怒り易く、争を好み、喧嘩をよくする子供でありました。

五、感情は概ね鋭敏情緒の發露が明かである子が多く、家庭について聞いて見ると、恐怖の情緒は夙くより明瞭に烈しく現はれたとのことであります。

又反對に少數のものは感情が弱く遲鈍で、普通と見らるゝものは比較的少數でありました。

六、意志は弱くして持續せざるもの多く、又強くとも持續せざるものが多かつたのであります。

七、身體の方面についての調査、

イ、身長は男女共に全校園幼児兒童の平均に比して劣つてはゐません。但し、幼兒時代及び一年生は一般の子供に比して劣つてゐますが、上級に進むに従つて、平均を凌駕してまゐります。殊に女兒に於て著しいやうです。外國でも一般に獨兒や末子は早熟だと申されてゐます。

ロ、體重は一般の平均に劣りますが、上級に到つて良好となり、女子は學校時代に入りて一般平均を優に凌駕してをります。

ハ、胸圍は男兒も女兒も一般に比して發育良好でありました。

ニ、體質は上のもの二八%、下のものが三〇%、其他は中位でありました。

低學年及び幼兒には、顔色の悪いもの多く、家庭について聞いて見ると、間食の過ぎるものが多かつた事がわかりました。

誠に粗雑な研究でありまして、恥しく存する次第であります。今はこの家庭でも、幼稚園へ入學させる準備で御忙しいこと、思ひますから、末子、長子、獨子は餘り可愛いがり過ぎて、一寸でも手はなすのが惜しく、家にばかり置かず、どん／＼幼稚園へ御送りなされた方がよいと存じますので。此處に一言お話ししてみたのであります。